



水道 GLP 認定証授与式（2月8日）

水道 GLP 認定委員会で認定の更新が決定した広島市水道局（認定番号：JWWA-GLP018）の水質検査機関の認定証授与式を日本水道協会理事長室において行った。



水道技術者専門別研修会（浄水処理部門（高度浄水処理を含む））（2月4日～8日）

当該部門の水道業務に従事する実務経験概ね3年以上の技術系職員の方々78名の参加を得て「浄水処理プロセスⅠ」、「浄水処理プロセスⅡ」、「オゾン・活性炭処理（UV処理を含む）」、「高度浄水処理」、「浄水場見学（北千葉広域水道企業団北千葉浄水場）」、「膜処理」、「生物処理（緩速汜過を含む）」、「水道水の消毒と代替塩素剤」について研修を実施した。

第101回経営調査専門委員会（2月7日）

はじめに、審議事項「地下水利用専用水道等に係る水道料金の考え方と料金案事例集について」を上程し、事務局案のとおり了承されるとともに、本件を3月27日開催の第140回事務常設調査委員会に上程することを決定した。

次に、情報交換事項「水道法改正における各事業者の対応について」を上程し、委員間で活発な情報交換がなされた。



第172回水道技術管理者協議会（2月7日）

はじめに、議題として「①停電等による浄水場の停止を回避するための対策」、「②地元水道工事業業者との連携、育成、発注方式の取り組み」、「③広報におけるSNSの活用、取扱い」、「④緩速汚過池の更正作業」、「⑤深井戸を将来に渡り使用する場合の課題と対策」について、意見交換を行った。

また、事務局より、「水道法改正」、「JWWA K115（水道用タールエポキシ樹脂塗料塗装方法）の改正」、「2019年度配水管工技能講習会の実施予定」、「水質の最新情報」について報告を行った。



第731回抄録委員会（2月12日）

本誌5月号に掲載する外国文献の抄録内容等について審議を行った。

第39回府県営水道連絡協議会（2月13日）

本協議会のメンバー都市から提案された情報交換事項として、「① 管路の長寿命化対策について」、「② 大規模な水運用の変更について」、「③ 基幹管路の耐震化と更新計画の考え方について」、「④ 水道事業における業務継続計画（BCP）と水安全計画等の関連計画について」、「⑤ PCタンク、配水池及び水管橋の内面塗装について」、「⑥ 建設工事現場における働き方改革について」、「⑦ 資金



管理について」、「⑧ 近隣浄水場の応援給水による一時的な給水区域の拡大について」、「⑨ 緊急時における粉末活性炭の安定的な調達への取り組みについて」、「⑩ 用水供給受水廃止に係る対応について（用水供給事業者対象）」、「⑪ 大規模豪雨に伴う浸水対策及び土砂災害対策について」、「⑫ 水道管内面補修に係る事前調査について」、「⑬ 老朽管の更新基準年数について」、「⑭ 取水口における土砂及び支障木対策について」、「⑮ 広域連携について」、「⑯ アセットマネジメントによる広域化効果の検討について」、「⑰ 浄水場の浸水対策について」、「⑱ 積算システムについて」、「⑲ 生活基盤施設耐震化等交付金の活用について」、「⑳ 水道料金改正にあたっての手続きについて」、「㉑ 応急給水に係る市町村との連携や役割分担等について」、「㉒ 特定計量器の取替に伴う測定水量の変動について」、それぞれ情報・意見交換を行った。

水道施設耐震技術研修会（大阪会場：2月13日～15日）

水道施設の耐震設計業務等に携わる方々80名の参加を得て「水道施設の耐震化の概要」、「水道施設の耐震設計の基本事項」、「水道施設の耐震設計方法」、「施設別の耐震設計」、「水道施設の耐震設計実務」、「施設（構造物）の設計事例と解説」について研修を実施した。

水道事故防止研修会（大阪会場：2月19日）

水道施設の運転・維持管理、浄水場等のリスクアセスメント導入又は検討に携わる方々47名の参加を得て、「浄水場におけるリスクアセスメント」と「上水道事業に関わる事故事例と再発防止策」の講義とともにディスカッションを中心とした研修を実施した。ディスカッションでは班ごとに事故の原因や再発防止対策等について、講師が用意した事例を基に討議を行った。

第140回水道 GLP 認定委員会（2月19日）

水道 GLP 認定について、福岡地区水道企業団（JWWA-GLP020）、札幌市水道局（JWWA-GLP022）、新潟東港地域水道用水供給企業団（JWWA-GLP073）と長岡市水道局（JWWA-GLP119）が認定更新検査機関として、茨城県企業局（JWWA-GLP045）、一般社団法人山梨県食品衛生協会（JWWA-GLP046）、公益社団法人鹿児島県薬剤師会（JWWA-GLP094）と株式会社丹野（JWWA-GLP130）が認定維持検査機関として、それぞれ審議され決定された。

第15回水道用薬品及び資機材の衛生性調査専門委員会（2月20日）

JWWA 規格 A103（水道用濾材）の濾過砂について、品質項目の“強熱減量”の品質規定値を緩和できるか審議を行った。審議の結果、提示資料だけでは不明な部分があり、追加情報を踏まえて判断することとした。

水道用ポリアクリルアミドと水道用過酸化水素の2規格についての審議を行った。審議の結果、2規格ともに本日の審議内容を反映した案でパブリックコメントの手続きに入り、それらの意見も加味した上で、衛生常設調査委員会へ報告することを了承した。

第21回 ISO/TC224上水道国内対策委員会（2月21日）

専門委員会 TC224の活動状況について、傘下の各ワーキンググループの活動のほか、他の専門委員会の動向として再生水利用に関する専門委員会 TC282の報告がなされた。

第973回会誌編集委員会（2月25日）

本誌3月号の編集方針、投稿原稿の査読等について審議を行った。

第8回訓練実施方法等検討小委員会（2月28日）

はじめに、審議事項として、「日本水道協会 全国地震等緊急時訓練 平成30年度応援訓練」の報告書について審議を行い、事務局案のとおり地震等緊急時対応特別調査委員会へ上程することが決定した。

次に、報告事項として、①大阪府北部を震源とする地震被害に係るアンケート結果、②平成30年7月豪雨における日本水道協会の対応、③平成30年北海道胆振東部地震における日本水道協会の対応について、それぞれ報告を行った。



第177回水質試験方法等調査専門委員会（2月28日）

厚生労働省水道課水道水質管理室の柴田基準係長から、平成30年度厚生労働省外部精度管理の結果等についての情報提供があった。

また、全体会では上水試験方法改訂に係る懸案事項の検討を、各部会では水質試験方法の懸案事項と上水試験方法の改訂について検討を行った。

水道 GLP マネジメント・レビュー（3月6日）

日本水道協会は、吉田理事長及び関係者出席のもと、水道 GLP マネジメント・レビューを実施した。認定検査機関は、現在の137機関まで順調に伸び、日本の水道水質の信頼性確保に大きく貢献している。

マネジメント・レビューでは、事務局からプログラムに沿って、水道 GLP 事務局に対する内部監査及び前年度のマネジメント・レビュー結果表に対する対応状況、並びに平成30年度の水道 GLP の審査・認定状況等について報告するとともに、水道 GLP 規範を平成30年4月に改正したことを報告した。

吉田理事長からは、今後も効率的な認定業務の遂行に努めること、審査力量の維持・継承並びに向上を図ること、また水道 GLP 認定取得の意義や効果等について積極的に情報発信することなどの指示があった。

